

養殖監視システム「不知火」を  
導入した海老の養殖場



俳優

大沢 樹生

special × interview

代表取締役

藤原 義則

# AI・IoT 技術を活かした独自開発の商品 情報蓄積・解析・予測で問題を解決する

養殖監視システムをはじめとする AI と IoT を活用した様々なサービスを提供する『ワンネス』。代表を務める藤原社長は電気業界で経験を蓄積し、1992 年から電気工事や管工を手掛ける企業を手掛けてきた。2017 年に新規事業として設立したのが、『ワンネス』だ。「消えゆく労働力に対応する技術を提供する」——そんな事業目的を掲げる同社を、本日は俳優の大沢樹生氏が訪問。社長にお話を伺った。

——早速ですが、藤原社長の歩みからお聞かせください。

学校卒業後は、石材会社で社会人の第一歩を踏み出しました。ところが入社して3カ月ほどでその会社が倒産してしまったんです。幸い、グループ会社を多く持つ会社だったので、その中の警備会社に移ることができたのですが、自分にはもっと他の道があるんじゃないかと3日で辞めたんですよ（笑）。その後、電気屋に移って経験を積み、そのうちに稼ぎたいなら自分で事業を手掛けるしかないと思い至り、独立を考えるようになりました。1992年に26歳で独立を果たし、一社目を立ち上げました。

——一社目ということは、こちら『ワンネス』さんとはまた別の会社で？

最初は電気工事を手掛ける会社『星城

電気』からスタートしたんです。まずは個人事業で基盤を築きました。経営については全くの素人でしたが、周りの方々の助けもあってスムーズにスタートを切ることができましたね。創業から3カ月ほどの間に元請けの建築屋が数件、相次いで倒産しまして、借入れをして何とか乗り切りましたが、あの時は大変な思いをしました。その後、2000年には法人化を遂げることができ、現在も継続しています。従業員が3名おり、妻が経理を担当してくれています。

——もう30年の歴史があるんですね。会社は立ち上げるのは簡単ですが、10年以上生き残る確率は低いと聞きます。苦勞もされながら、ご立派です。こちらの『ワンネス』さんを立ち上げられたのは何年のことですか。

『ワンネス』を設立したのは、2017年のことです。人材不足が著しい近年、AI と IoT を活用したサービスを展開し、消えゆく労働力に対応する技術をお客様に様々な角度からご提案したい——そんな理念を掲げてスタートを切りました。

——具体的にはどういった事業でスタートを？

海老の養殖でスタートしました。2年目に数百万円の利益を得ることができたので、150万円ほどの水槽を3つ購入し、本格的に事業化することにしたんです。しかし、漏電によって海老が全滅。その出来事をきっかけに、IoTを活用した養殖監視システム「不知火」を開発しました。これは、IoT技術を使って24時間365日、水質を監視できる海老の養殖用システムです。センサーを水中に入れるだけでpH、ORP、導電率、酸素濃度、溶存酸素、水温、塩分濃度など様々な数値を測定でき、異常があったらリアルタイムでスマホに届く仕組みになっています。このシステムをパッケージ化して販売しており、素人の方でも安心して海老の養殖ができるシステムなんです。私自身もこのシステムを使って養殖を続けていますし、2021年は50セットほども売れまして、ニーズがあると手応えを感じています。

——素人でも、安心して養殖に挑戦できるというのが良いですね。

ええ。トラブルが起きた時だけではなく、常に収集したデータを自動で可視化できるので、トラブルを未然に防ぐことも可能です。

——こうしたシステムを開発されるので、社長が高い技術とノウハウをお持ちなのが窺えます。他には、こういったものを手掛けておられるのでしょうか。

今ほどの業界も深刻な人手不足でしょう。これからの40年で、1,400万人もの労働力が消え去るとも言われています。そこを補うため、IoTを活用した様々なサービスを提案していきたいというのが創業目的でした。その一つが、介護者の



肉体的・精神的負担の軽減と、要介護者の安全確保を目的とした介護補助用見守りシステム「miteru」です。——介護業界は、需要が高まる一方であるのに対して、特に人手不足だと言われていまして、大きな社会貢献ですね。こういったシステムですか。

ベッドにセンサーを設置するだけで、要介護者の生体信号を測定し、離れた場所からリアルタイムでスマートフォンやタブレット端末にて要介護者の離床や呼吸、脈拍などを確認できるシステムです。また、排泄状況を知らせてくれるセンサー付きのおむつなど、IoTを活用した様々なサービスを提案しています。例えば、圧力センサーを重油出口に付けることでタンク内の残量を一括管理できる重油センサー、小さな川にも設置でき、複数の河川または同一河川内、多くの場所で監視を行うことで広範囲にわたる水位変化を把握できる水位センサーなどがあ

ります。太陽光パネルなどの自然エネルギーを用いることで、電気を確保できない場所でも設置可能ですし、使い易く低価格。異常気象の発生が多い近年、素早い対応を支えるシステムです。まだまだ可能性は無限大ですから、今後お客様が直面する問題を解決し、お客様の発展に寄与できるシステムを提供していきたいですね。

——今や、我々の生活とIoTは切り離せませんが、その恩恵を受けることでより良い社会を実現する事業と言えますね。

センサー・端末・クラウド全て自社開発なので、コスト・運用面におけるハードルを低く開発できます。場所やエネルギーを選ばないのも当社商品の強み。導入しやすいことも重視し、「こういうシステムがあれば便利なのに」というお客様の声を実現していきたいですね。

——本日は、ありがとうございました。（2022年5月取材）

## column

▼2社の舵を取る藤原社長。「星城電気」には従業員がおり、人材育成についても確たる考えを持つ。人材育成において社長が重んじていること、それは信頼することだ。自身、細かく指示を出され、管理されることを窮屈に感じるタイプだったという社長だからこそのスタンス。「信頼して任せることが、本人の責任感や成長につながる。口出ししたくなる時もありますが、ぐっとこらえます」と笑う。そんな従業員とはコミュニケーションを密に取っており、進行状況に関して把握しているため、必要に応じて社長がすぐ動く。例えば、トラブルが起きた時こそスピード対応が大切。休日や深夜であっても、連絡があればすぐに駆けつけ、問題の解消に努める。そんな「お客様第一」の姿勢があればこそ、長年事業を継続できているのだ。現在、社長の23歳の息子が電気業界で修業中。5年後には『星城電気』を引き継ぎ、後を託す考えの社長。信頼して見守る姿勢で、人材の育成にも力を入れる。



「30年前に電気工事業で独立されて、順調に売上を伸ばしてこられました。そこからまた新たな事業をはじめられた藤原社長。そのバイタリティには驚かされました。失敗しても、そこで諦めないでチャレンジを続けられたからこそ今があるのでしょうか。創業から支えてこられた奥様をはじめとするご家族の存在を原動力に、従業員さんと共により活躍ください！」 大沢 樹生・談

**ワンネス 株式会社**  
熊本県熊本市西区上高橋 1 丁目 6-28 URL : <http://oneness7.jp>